

# 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成28年3月  
東海市（愛知県）

## 全体総括

○計画期間;平成23年6月～平成28年3月(4年9月)

### 1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

基本計画に基づき、人々が相互に交流することが、まちのにぎわいとなり、商業活動や文化活動の活性化にも繋がっていくものと考え、人々が互いに交流できるまちづくりを目指すことを中心市街地活性化のコンセプト「人と人をつなぎ、交流から生み出す にぎわい溢れるまちづくり」として事業を推進してきた。

「東海太田川駅周辺土地区画整理事業」「市街地再開発事業」「名古屋鉄道常滑線等（太田川駅付近）連続立体交差事業」等の都市基盤整備を目指した事業は、概ね順調に進捗しており、本市の玄関口である太田川駅周辺の公共施設の整備については、駅西側において整備を進めてきた大屋根、駅前広場、駅西歩道、立体横断施設等が平成27年度中に完成したことにより完了した。これまでに安全で便利な道路整備を行うとともに、駅前イベント広場や50m歩道を始めとする歩行者専用道路、文化、高等教育、商業等の主要な都市機能の計画的な配置により、車を持たない人にも多様で質の高い移動手段を提供する鉄道駅を含む交通の結節点というポテンシャルがいかに発揮されていることから、駅の乗降客数は増加傾向にあり、飲食店等の入居する複数の民間商業ビル建設も進められるなど活性化が図られている。

ソフト事業は、こうした概ね順調に進むハード整備とは対照的に、駅前イベント広場の供用開始当初から、市や観光協会が主催するイベント等を中心に行っており、民間企業・団体等による主催イベントは「大田まつり」や「につぼんど真ん中祭りサテライト会場事業」等限られたものだけであり、恒常的なにぎわいに結びついていなかった。

しかし、徐々に駅前イベント広場の認知度が高まり民間が主体となったイベントの開催が増えてきていることから、今後も規模の大小に関わらず高頻度にイベントが開催されるためには、株式会社まちづくり東海がイベント告知のサポート等を行って団体等にイベント参加を促して、多様な担い手を育成するとともに施設間の連携を深めることで、にぎわい創出を図る必要がある。

太田川駅周辺の整備も最終局面を迎え、それに伴い人口、小売店舗の数、来街者数は増加傾向にあり、まちづくりは概ね計画通りに進んでいるが、これまでの成果等が腰折れしないように、しっかり支えていくためにも課題等を解決し一層にぎわいあふれるまちづくりを推進していく必要がある。

### 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた42事業のうち、16事業が完了、25事業に着手、2事業が未着手であった。未着手の2事業について、「太田からくり時計整備事業」は内容を見直し駅前トイレ前に時計を設置することで、鉄道、バス利用者の利便性を向上するなど、事業全体では概ね順調に進捗・完了した。

中心市街地の居住人口は新築が見込まれていた共同住宅による増加に加え、計画にはなかった106戸の分譲マンション（ライオンズ太田川ステーションレジデンス）が整備されるなどしたことにより目標値を大幅に上回っている。

中心市街地の歩行者・自転車通行量は「名古屋鉄道常滑線等（太田川駅付近）連続立体交差事業」において、平成23年12月に太田川駅の高架化が完了し、残りの側道、交差道路の整備も平成25年度末に整備が完了したことにより、駅東西の市街地間の人々の行き来がスムーズになり新たな回遊性が生まれたこと及び、平成27年には、駅西側に大型商業施設、大学、市街地再開発ビルが相次いでオープンしたこと等により目標値を大幅に上回っている。

また、太田川駅の乗降客数も増加傾向にあることから、本計画に基づく事業推進の成果の現れと考えられる。

したがって、太田川駅前施設の完成や民間商業ビル、共同住宅建設などにより、居住人口と来街者、駅利用者等が増加したことから、中心市街地はかなり活性化が図られたと考える。

### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

東海市の中心市街地づくり、顔づくりとして取り組んできた太田川駅周辺整備は、平成27年に大型商業施設「ラスパ太田川」の開業を皮切りに、日本福祉大学東海キャンパスの開学、芸術劇場のオープン、そして、平成28年3月に、大屋根を有する太田川駅西歩道や立体横断施設が完成したことで、にぎわいと活気あふれる本市のさらなる飛躍への第一歩を踏み出そうとしている。

こうしたハード面の整備が計画どおりに進むとともに、市民や来街者を対象にした事業も数多く開催されている。特に駅前イベント広場では、株式会社まちづくり東海や観光協会が主体で行う事業だけでなく、民間団体・企業が主体のイベントも増加しつつある。

このようなハード整備事業とソフト事業が相まって、東海市中心市街地活性化基本計画の中に明記されているまちづくりコンセプトである「人と人をつなぎ、交流から生み出すにぎわい溢れるまちづくり」の実践が進みつつある。

太田川駅周辺のハード面の整備は、一応の完成となるが、今後は、これまでに整備した施設等を活用して、中心市街地の「にぎわい創出と交流拡大」を核に、その波及効果を市内全域に行き渡らせていく必要がある。

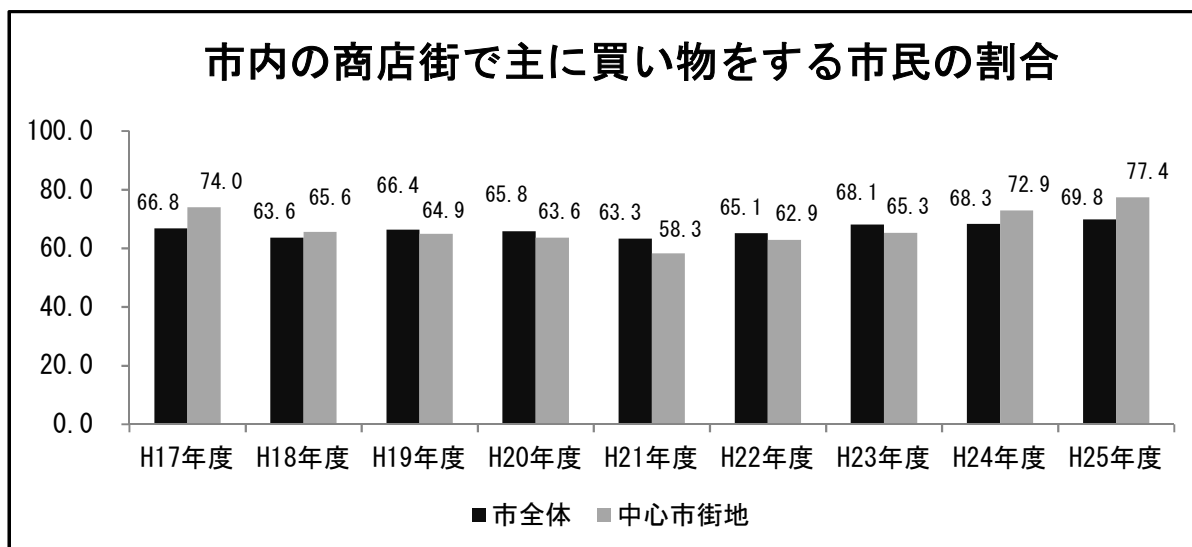
## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

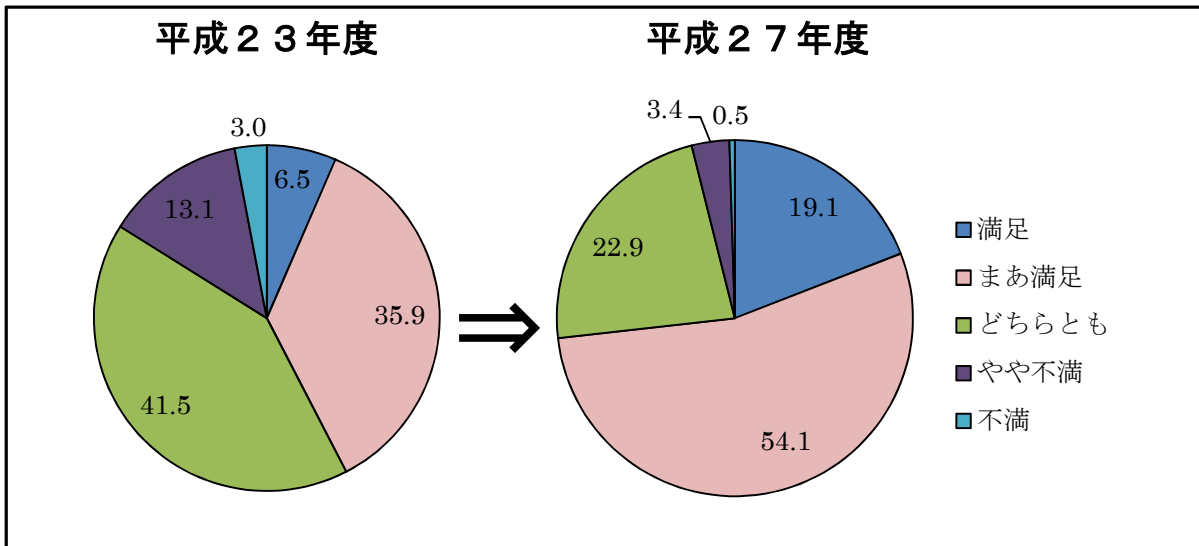
### 【詳細を記載】

第5次東海市総合計画 まちづくりアンケート「市民生活の現状についてのアンケート」（調査対象：市内在住の16歳以上の男女3,500人）の市内の商店街で主に買い物をする市民の割合は、ユニー太田川店の閉店や土地区画整理事業による移転の進捗により多くの商店が閉店したため、減少傾向にあり市平均を下回っていたが、本計画の効果により中心市街地の整備の進捗に合わせて増加傾向に転じ、平成24年度からは市平均を上回っている。



来街者の回遊性を分析し、中心市街地の活性化・にぎわい創出を図るための基礎データを収集する来街者アンケート（調査対象：太田川駅周辺での聞き取り600件以上）のまちの全体的に見た満足度は、駅周辺整備の進捗によって改善傾向にあり、「満足」「まあ満足」と回答した割合は平成23年度の42.4%から73.2%へと大幅に増加した。

	満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
平成23年度	6.5%	35.9%	41.5%	13.1%	3.0%
平成27年度	19.1%	54.1%	22.9%	3.4%	0.5%



## 6. 今後の取組

太田川駅周辺の整備も最終局面を迎え、それに伴い人口、小売店舗の数、来街者数は増加傾向にあり、まちづくりは概ね計画通りに進んでいるが、「イベント開催団体の育成」「太田川駅周辺の回遊性の拡大」という大きく2つの課題を抱えていることから、本計画で整備した施設及び機能の活用とポテンシャルの最適化を進めるとともに、事業の実施主体が単独で事業を推進するだけでなく、中心市街地活性化協議会を構成する団体等が連携して事業を推進することで、これまでの成果等が腰折れしないようしっかり支えていくとともに、さらなる中心市街地の活性化を目指していく。

(参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
街なか居住の推進 ～住みたくなるまち づくり～	中心市街地の居住 人口 (人)	3,265 (H22)	3,400 (H28)	4,032	H27.4	A
来街者の回遊の拡大 ～訪れたくなるまち づくり～	中心市街地の歩行 者・自転車通行量 (休日) (人)	1,174 (H22)	1,470 (H28)	3,621	H27.11	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

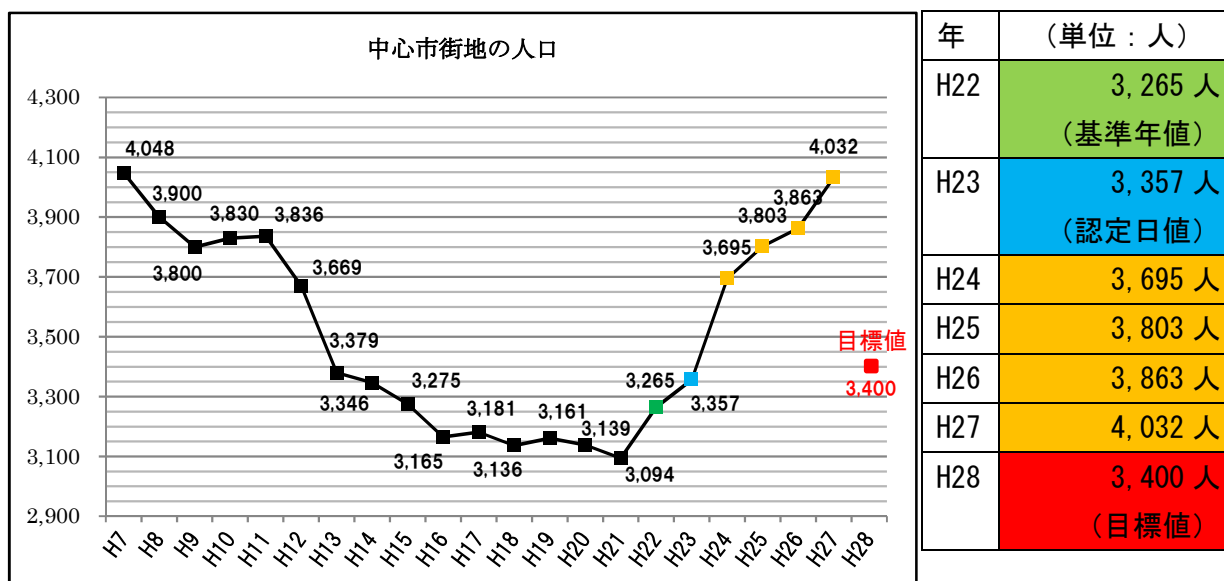
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

「中心市街地の居住人口の増加」※目標設定の考え方基本計画 P77～P84 参照

### 1. 調査結果の推移



※調査方法；毎年発行される「東海市の統計（住民基本台帳）」による中心市街地エリアの該当地区の人口数

※調査月；毎年4月1日

※調査主体；東海市

※調査対象；中心市街地エリアの居住者

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 事業名 1 東海太田川駅周辺土地区画整理事業（東海市）

支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金(道路事業(区画))(平成22年度～平成32年度) ②社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(太田川駅周辺地区))(平成22年度～平成23年度) ③社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(太田川駅周辺地区(地方都市リノベーション事業)))(平成25年度～平成26年度)
事業開始・完了時期	平成4年度～平成32年度【実施中】
事業概要	太田川駅周辺の64.3haを対象とした土地区画整理事業。 住みやすい快適な都市基盤整備を目指し、安全で便利な道路整備を行うとともに、駅前広場や50m歩道を始めとする歩行者専用道路等の整備を実施する。
目標値・最新値	目標値:133人 最新値:767人
達成状況	達成
達成した(出来)	太田川駅周辺における事業の進捗により、計画にはなかった106

なかった)理由	戸の分譲マンションが整備されるなど居住人口の増加が図られたことにより達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	都市基盤整備の進捗により、まちなか居住や新たな商業機能の立地が促進されている。
今後について	引き続き完了に向けて事業を継続する。

②. 事業名 12 市街地再開発事業(駅西地区複合施設)(再開発組合)

支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成23年度～平成24年度) ②社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(太田川駅周辺地区(地方都市リノベーション事業)))(平成25年度～平成26年度)
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】
事業概要	太田川駅西地区に都市再開発法に基づく第一種市街地再開発事業として再開発ビルを整備する。 この再開発ビルには、分譲マンションや商業施設の他、公共施設として、大ホールや参加・体験、創造支援型の施設などを整備する。
目標値・最新値	目標値:218人 最新値: 一人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	平成25年度には建築工事に着手し、26年度内の完成を予定していたが、同年4月に施行となった建築基準法施行令等の改正に伴い、東海市芸術劇場において、大規模天井の脱落防止対策としての工事仕様の変更を行うことが必要となったため、完成は27年8月と当初計画よりも遅れたが、分譲マンションは完売しており、まちなか居住の推進及び中心市街地の活性化が図られたことにより達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	新たな住宅が供給されたこと及び、芸術劇場の開設によって都市としての魅力が向上したことにより、まちなか居住の増加が図られている。
今後について	実施済み

③. 事業名 8 50m歩道整備(東海市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(太田川駅周辺地区))(平成23年度)
事業開始・完了時期	平成23年度～平成24年度【済】
事業概要	太田川駅東に幅員50mの歩行者専用道路を整備し、駅前の安全

	で快適な歩行者動線の確保と共に、憩いやにぎわいを兼ね備えた空間を整備する。
目標値・最新値	目標値:一人 最新値:4,032人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、中心市街地のにぎわい・交流拠点として、憩いやにぎわいを兼ね備えた空間が整備され、まちの魅力が向上し人口が増加したことにより達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	イベントの開催によるにぎわい・交流拠点、及びイベント開催時以外も市民の憩いの場として、にぎわいづくりや回遊性の向上が図られている。
今後について	実施済み

④. 事業名 13 名古屋鉄道常滑線等(太田川駅付近)連続立体交差事業(愛知県)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))(平成23年度～平成25年度)
事業開始・完了時期	平成13年度～平成25年度【済】
事業概要	鉄道及び太田川駅を高架化し、鉄道踏切による交通の遮断や地域の分断等の問題の解決を図る。 常滑線2.045km、河和線0.72kmを高架化し6箇所の踏切を除却する。
目標値・最新値	目標値:一人 最新値:4,032人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、連続立体交差事業が完成し、新たな回遊性が生まれ、まちの魅力が向上したことで、人口が増加し目標を達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	太田川駅東西の市街地間の人々の行き来がスムーズになり新たな回遊性が生まれている。
今後について	実施済み

3. 今後について

本計画では土地区画整理事業、鉄道の連続立体交差事業、芸術劇場等の大規模施設の整備を進めることで、良好な景観が保たれ、快適に暮らせる環境が整備されたことから、今後は、市民参画の推進や市民との協働と共創による地域の再生・活性化などの課題解決に向かって、住民のまちづくりの意識や地域コミュニティの強化を図る。

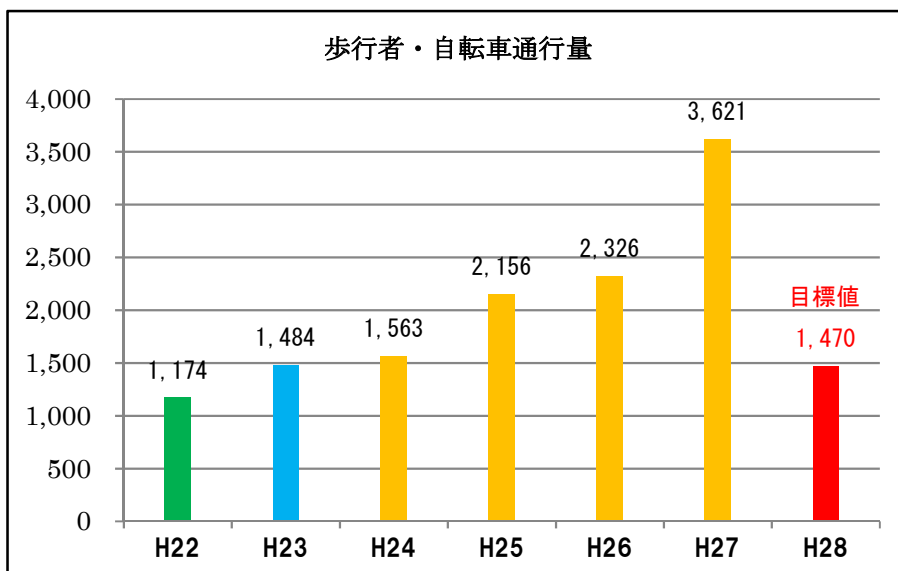
なお、土地区画整理事業の太田川駅周辺における整備はほぼ完了したが、全体の事業進捗率は約90%であり、引き続き事業を進めることで、今後も居住人口の増加が見込まれる。

また、市街地再開発事業については、当初計画よりも完成が遅れたことにより、平成27年6

月から入居開始のため、完売している106戸の分譲マンション（ローレルタワー太田川駅前）の居住人口の増加分は平成28年度の現状値に反映される。

「歩行者・自転車通行量の増加」※目標設定の考え方基本計画 P85～P91 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H22	1,174 人 (基準年値)
H23	1,484 人 (認定日値)
H24	1,563 人
H25	2,156 人
H26	2,326 人
H27	3,621 人
H28	1,470 人 (目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査

※調査月；平成27年10月24日(土曜日)

※調査主体；東海市

※調査対象；歩行者・自転車通行者、休日昼間(9:00～17:00)の合計、エリア内の線路横断箇所(3箇所)

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 事業名 8 50m歩道整備(東海市)【再掲】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(太田川駅周辺地区))(平成23年度)
事業開始・完了時期	平成23年度～平成24年度【済】
事業概要	太田川駅東に幅員50mの歩行者専用道路を整備し、駅前の安全で快適な歩行者動線の確保と共に、憩いやにぎわいを兼ね備えた空間を整備する。
目標値・最新値	目標値:20人 最新値:22人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、中心市街地のにぎわい・交流拠点として、憩いやにぎわいを兼ね備えた空間が整備され、まちの魅力が向上し来街者が増加したことにより達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	イベントの開催によるにぎわい・交流拠点、及びイベント開催時以外も市民の憩いの場として、にぎわいづくりや回遊性の向上が図ら



	れている。
今後について	実施済み

②. 事業名 19 太田川駅前にぎわい創出・PR 事業（東海市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（太田川駅周辺地区））（平成22年度～平成23年度）
事業開始・完了時期	平成22年度～平成23年度【済】
事業概要	太田川駅の高架化完成や駅前広場（駅東）、50m歩道の一部の完成は中心市街地の再生のスタートとなる。このことを「まち開き」として市民とともに祝うとともに市の内外に発信するイベントを行う。 また、大田まつりの山車蔵（里組）を整備する。
目標値・最新値	目標値:80人 最新値:88人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	当初の計画どおり、太田川駅前にぎわい創出・PR事業が実施され、まちの魅力が向上し来街者が増加したことにより達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	「太田川駅前まち開きフェスティバル」には予想を上回る来街者があり、また全ての山車蔵が整備されたことで、一層魅力的な地域となり、来街者の増加が図られている。
今後について	実施済み

③. 事業名 12 市街地再開発事業（駅西地区複合施設）（再開発組合）【再掲】

支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（平成23年度～平成24年度） ②社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（太田川駅周辺地区（地方都市リノベーション事業）））（平成25年度～平成26年度）
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】
事業概要	太田川駅西地区に都市再開発法に基づく第一種市街地再開発事業として再開発ビルを整備する。 この再開発ビルには、分譲マンションや商業施設の他、公共施設として、大ホールや参加・体験、創造支援型の施設などを整備する。
目標値・最新値	目標値:40人 最新値:2,013人
達成状況	達成
達成した（出来	平成27年10月から芸術劇場と商業店舗が順次オープンしており、

なかった)理由	太田川駅西側における新たな導線が生まれたことにより達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	市街地再開発ビルをはじめ、太田川駅周辺の整備により、駅周辺の魅力が向上し、商業施設等への来街者は増加している。今後は、来街者に個々の施設・店舗だけでなく、他の施設・店舗にも立ち寄ってもらえるよう個々の魅力を向上し、まちなかにおける回遊性を高めていく必要がある。
今後について	実施済み

④. 事業名 13 名古屋鉄道常滑線等(太田川駅付近)連続立体交差事業(愛知県)【再掲】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))(平成23年度～平成25年度)
事業開始・完了時期	平成13年度～平成25年度【済】
事業概要	鉄道及び太田川駅を高架化し、鉄道踏切による交通の遮断や地域の分断等の問題の解決を図る。 常滑線2.045km、河和線0.72kmを高架化し6箇所の踏切を除却する。
目標値・最新値	目標値:240人 最新値:263人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、連続立体交差事業が完成し、新たな回遊性が生まれ、まちの魅力が向上したことで目標を達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	太田川駅東西の市街地間の人々の行き来がスムーズになり新たな回遊性が生まれている。
今後について	実施済み

⑤. 事業名 23 にぎわい創出イベントプロモート事業(株)まちづくり東海・東海市・観光協会)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成24年度～【実施中】
事業概要	50m歩道を中心に、各種イベントを開催・誘致する。
目標値・最新値	目標値:20人 最新値:22人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	駅前イベント広場の供用開始当初から、市や観光協会が主催するイベント等を中心に行っており、徐々に民間主体のイベント開催も増加していることから目標を達成した。

計画終了後の状況（事業効果）	イベントの開催によるにぎわい・交流拠点、及びイベント開催時以外も市民の憩いの場として、にぎわいづくりや回遊性の向上が図られている。
今後について	引き続き実施していく

⑥. 事業名 41 地方都市リノベーション推進施設（文化教育施設）整備事業  
（日本福祉大学）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(太田川駅周辺地区(地方都市リノベーション事業))) (平成25年度～平成26年度)
事業開始・完了時期	平成25年度～平成26年度【済】
事業概要	太田川駅西側に、日本福祉大学東海キャンパスを整備する。
目標値・最新値	目標値:一人 最新値:39人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	当初の計画どおり、日本福祉大学東海キャンパスが整備され、通学者等が増加したことにより目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	「地域に開かれた大学」「地域・社会とつながるキャンパス」を目指して地域の人々を積極的に受け入れており、地域のにぎわいと活性化が図られている。
今後について	実施済み

3. 今後について

歩行者・自転車通行量は増加し、目標指標は達成しているが、駅前イベント広場参加者調査の結果から、イベント参加者の多くはイベント参加を目的としての来街者であり、他の施設等への回遊行動に結びついていない。イベント参加者の約3分の1は、駅前イベント広場に「初めて来た」「ほとんど来ない」と回答している一方で、約半数は、イベント等の開催があれば駅前イベント広場に来ると回答しており、魅力あるイベント等の開催によって交流人口の増加を図る。

また、商業者間の連携や多様なサービスの提供により回遊性の拡大を図るとともに、名古屋市へ流れている市民の買回り品が購入できるなど商店の魅力向上に資する取り組みを検討し、実施していく。